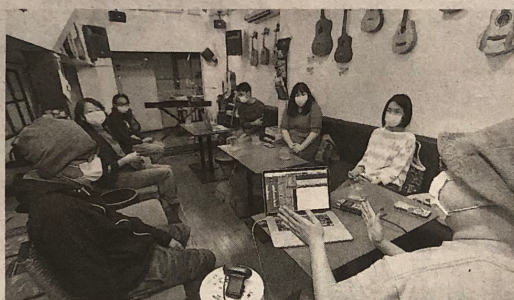


ライブの熱気 復活へ一歩

休業要請解除

新型コロナウイルスの感染拡大で、最後まで残っていた東京のライブハウスやクラブなどへの休業要請が19日に解除された。新たな一歩を踏み出す店舗がある一方で、集客が見込めずに閉店を余儀なくされるケースも。元の姿を取り戻すには時間がかかりそうだ。



編曲のセミナーでは、全員間隔をあけていた=19日午後7時49分、東京都のライブハウス「アルカフェ」、角野貴之撮影



「三宿Web」の歴史を見守り続けてきた長沢剛史店長=19日夕、東京都世田谷区

席1席間隔・定員一桁■頼みは無観客配信

「今日はついに再開、めでたい日です。楽しんでいきましよう！」

19日夜、ライブハウス

「アルカフェ」（東京都杉並区）で、歌手の丸山晋平さん（36）が呼びかける。約40平方メートルの店内を拍手が包んだ。客は座ったまま静かに体を揺らし、聴き入った。政府のガイドラインに従って観客はマスクを

着用。席は約1席の間隔を空け、出演者との距離も広げた。定員は約30人だが8人まで絞った。

新型コロナウイルスの影響で4月

11日からライブハウスとしての活動を自粛。カフェ営業を続けたが、4月の売り上げは4割減った。オーナーの佐々木典子さん（48）は「人のいないライブハウスは本当に寂しかった。この

空間がいかに尊かったか実感した」。3年近く通う坂田澄恵さん（56）は「この会場だからこそ聞ける柔らかな音が大好き」と話した。

一方、約5500人が入る

新宿・歌舞伎町のライブハウス「新宿ロフト」は、出演者との日程調整などに時間がかかるため、しばらくは無観客のライブ配信に頼らざるを得ない。接待を伴う

飲食店などで感染が確認されて出演者も慎重になっているといい、加藤梅造社長は「ライブは出演者やイベントの主権者、観客がいないと成立しない。休業要請が解除されても、ライブ文化を取り戻せるのはずっと先の話だ」と声を落とす。

創業52年の老舗「HEAD

POWER」（東京都新宿区）も、ライブ再開の

めどが立つまでは配信が主な収入源だ。オーナーの阿部健太郎さんは、「かつての姿で営業できるのは1年、あるいはもっと先になるかもしれない。小さな店舗がその間も存続できる保証はない」と危惧する。

閉店する店も

すでに閉店を決めた店もある。

1994年から続く「三宿Web」（東京都世田谷区）は5月中旬、ブログで

閉店を告知した。タレントの藤井隆さんやヒップホップグループ「リップスライム」など多くのアーティストゆかりの店だ。閉店日は未定だが、長沢剛史店長は「元のような客足には戻らないと判断した。最後に1カ月開けて、お客様とお別れしたいが……」と語る。

渋谷駅付近で4店舗を運営してきたカルチャー・オブ・エイジア社は、96年開業の有名店「クラブ・エイジア」の休業期間中の家賃や人件費などをクラウドファンディングで募った。6月15日までに6744人から約3900万円が寄せられ、存続への道がひらけた。一方で、系列3店舗は5月末に閉店に追い込まれた。同社の田中博さんは「閉店した系列店の気持ちも背負い、存続へ向けて前進したい」。感染症対策をしたうえで、7月以降に段階的な営業再開を検討している。（増山拓史、伊藤恵里香

新型コロナウイルス
国内での確

北海道
青森
岩手
宮城
秋田
山形
福島
茨城

40年前
たった
生には
ティ平
出そう
ない。ド
は、50
そう思
らしく
（若松